

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

北米西海岸を中心とする航路では、混雑が緩和する傾向が見られていますが、一部では依然として、本船スケジュールに乱れが生じています。アジアの主要積替港であるシンガポールや中国では、台風の影響や船舶の集中入船により、数日の滞船が続いています。

日本の主要港では、混雑が深刻化しており、抜港や寄港予定地の変更、迂回ルートを臨時で増設し引き続き混雑改善に向け取り組んでいます。

北米航路における船腹予約状況は8月11日に正式署名された関税停止の延長措置により市場は落ち着きを見せています。本来であれば年末商戦に向けて、荷動きが活発化する時期ですが、米国経済のインフレ進行や消費の鈍化、在庫過多、併せて船舶供給の過剰が重なったことで需要は低調に推移しています。

ビートパルプ

25-26年産ビートは各産地で本格的な製造が開始されており、米国では既にペレットの出荷も開始されています。欧州やメキシコ、米国内での需要も堅調に推移していることから取引は活発化しており、大半が既に制約済となっています。今後の動向次第で生産量を需要が上回ることも考えられるため引き続き注視が必要です。

アルファルファ

【ワシントン州】

主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、3番刈の収穫作業が終了しており、現在4番刈の収穫作業が終盤を迎えています。収穫された4番刈の品質は一部の圃場での降雨被害や、同州近郊およびカナダで発生した山火事による煙の影響により、中～低級品も見られますが、序盤に収穫された圃場では上級品も発生しています。

産地では取引が進んでいますが、生産農家からは取引価格への不満も強く出ていることから、来年の作付面積は減少する見通しです。

【オレゴン州】

オレゴン州クラマスフォールズおよびクリスマスバレーでは、3番刈の収穫作業が終了しており、1～3番刈までの期間で降雨を避けた一部の圃場で4番刈の収穫作業が中盤を迎えています。収穫された3番刈の品質は一部に降雨被害が発生したものの、被害前に収穫を終えた圃場では上級品が発生しています。

【カリフォルニア州】

カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、5番刈の収穫作業が終盤を迎えており、6番刈の収穫作業が開始されています。一部の圃場では局地的な雷雨や降雨の影響により被害が発生しています。現在は、茎細で色褪せたサマーハイの発生が中心ですが、気温が徐々に低下しており、今後はアルファルファの成分値が回復していく見込みです。灌漑局の発表によると、9月15日時点でのアルファルファの作付面積は137,747エーカーとなっており、前年同期の137,284エーカーからやや増加しています。

中国からの安価な低級品の需要はありますが、輸出全体の需要は低調に推移しています。

米国産チモシー

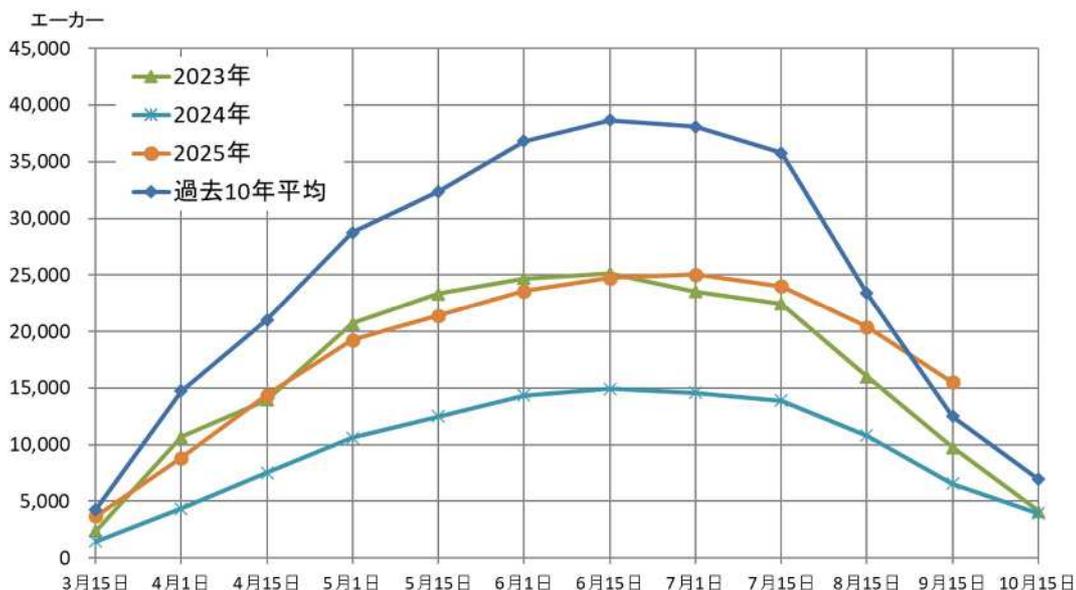
主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは2番刈の収穫作業が終了しています。生育期の天候に恵まれたため、収穫された2番刈の品質は上級品の発生が中心ですが、降雨を避けて収穫した圃場では、刈遅れによる中～低級品も発生しています。

1番刈では中～低級品の発生が限定的となったため、低級品への需要が堅調に推移しており、輸出業者は在庫確保に苦戦しています。

スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫作業が終了しています。産地相場低迷により1番刈で生産を終了した圃場もあり、8月下旬と9月上旬の降雨の影響もあって、生産量が需要を満たせるか懸念されています。また、一部の輸出業者が保有していた旧穀の繰り越し在庫も解消され、日本からの需要も一定の回復が見られているため、産地相場は堅調に推移しています。

灌漑局によると、9月15日時点でのスーダングラスの作付面積は15,526エーカーで、前年同期の6,552エーカーから増加しています。



インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移 (単位：エーカー)

クレーングラス (クレーンは全酪連の登録商標です)

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、4番刈の収穫作業が終了しており、DIP (休耕地政策) を行っていない一部の圃場で5番刈の収穫が開始されています。DIP 終了後に生産を実施する圃場もありますが、水を止めたことによる株の死滅や、日照不足による生育の不安定により輸出向けに適さない低級品が収穫される見通しです。

灌漑局の発表によると、2025年9月15日時点でのクレーングラスの作付面積は23,901エーカーとなっており、前年同期の22,054エーカーから増加しています。

バミューダ

主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは現在、大半の圃場でDIPに入り節水を実施しています。DIP 終了後の圃場は、種子生産とストロー生産が行われる見込みです。

2025年9月15日時点での作付面積は86,004エーカーとなっており、前年同期の77,964エーカーから増加しています。

ストロー類 (フェスキュー・ライグラス)

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、収穫作業が終了しています。米国産チモシーの低級品不足や、日本や韓国で稲ワラの不足が予想されていることから、輸出業者の買付競争が激化しており、需要は堅調に推移しています。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では、25年産2番刈の収穫作業が中盤を迎えています。日照時間が短くなっていることで、圃場での乾燥に時間を要していますが、収穫された品質は例年並の良品となっています。しかしながら、1番刈では上級品の発生が限定的となったため、産地では買付競争が激化しており、産地相場は堅調に推移しています。

同州中部のクレモナ地区では断続的な降雨の影響で収穫作業が遅れましたが、9月上旬に1番刈の収穫作業は終了しています。



25年産カナダチモシー

9月下旬レスブリッジにて撮影

(左：1番刈上級品 右：2番刈中級品)

豪州産オーツハイ・ウィートストロー

25年産オーツハイの収穫作業が各地域で開始されています。生育期から収穫前に掛けて適度な降雨もあったため、順調に生育しており、上級品が中心の発生となる見通しです。収量については南豪州でやや例年を下回る見込みですが、東豪州や西豪州では例年を超えると予想されています。

また、豪州航路においては、世界的なコンテナ需要の増加に伴い、本船スケジュールの遅延が継続しています。年末にかけてコンテナ需要が高まることも予想されており、スケジュールへの影響が懸念されているため注視が必要です。



25年産オーツハイ
10月上旬 東豪州にて撮影
(左：刈取後の圃場 右：ベーリング後)

以上